



思い思いにおいしかった米をおかわりしました

新米試食会（市農業振興協議会主催）が10月11日、宝江ふれあいセンターで催され、農業関係者ら約70人が参加しました。

# 地元の食材で秋の実り満喫

## 新米試食会



市内産の食材で参加者のはしが進んだ試食会

ササニシキ、ひとめぼれ、まなむすめの環境保全米と、秋田県大潟村産あきたこまち、新潟県南魚沼産コシヒカリの5種類。地元の野菜を使った煮物やサラダなどのおかずも振る舞われました。

市長は「登米市のおいしい環境保全米を、これまで以上に知恵を出し合い、全国的に広めていきたい」とあいさつ。参加者は、香りと食感を楽しみながら新米を味わいました。参加者には、事前に品種は伝えておらず、食後においしいと思っただけに順番を付けるアンケートを実施。全5種類のうち、1番人気はササニシキ、次いでひとめぼれと、市内産の米をおいしいと答えた人が多い結果となりました。



段差がある歩道を実際に車いすに乗って点検する参加者

歩行者の立場で道路を歩き、交通環境の現状把握や問題点を確認し合う、「交通安全総点検」（国土交通省、県、市主催）が10月5日、米谷公民館とその周辺道路で行われました。

点検には、小中学生や高校生、老人クラブ・交通安全団

体員、学校・道路占有者関係者ら約70人が参加。2つのグループに分かれて、米谷地区の中心部を約1キロずつ歩き、歩道の段差や破損などを確認する路線点検と、標識や横断歩道を点検する個所点検を行いました。

調査では普段、車や自転車でも何気なく通る道でも実際に歩いてみると、歩道が急に狭くなったたり段差があったりして、歩行者には歩きにくい場所があることが判明。段差がある個所では、実際に車いすに乗って点検も行いました。参加者は、それぞれ点検シートに問題のある場所を



点検結果を取りまとめ改善策などを話し合いました

記入、チェックし確認の写真を撮影。その後、米谷公民館に戻り、グループミーティングで点検結果を取りまとめ、代表者が発表しました。点検に参加した佐藤ひろみさんと白岩璃沙さん（ともに米谷小6年）は、「普段通る道なのに、調査をしてみたら歩きにくい場所や壊れているガードレールがありました。子どもからお年寄りまで歩きやすい道路になってもらえればうれしいです」と話していました。

# 歩行者の立場で道路を点検 東和地区で交通安全総点検

# 全国広報コンクール表彰式〜岡山県倉敷市 登米市発行の「広報とめ」 広報紙市部で2席を受賞

自治体の広報紙などを対象とした平成18年全国広報コンクール（日本広報協会主催、内閣府・総務省・読売新聞社後援）の表彰式と、第43回広報広聴研究大会が9月28、29日、岡山県倉敷市の倉敷チボリ公園「アンデルセンホール」で行われました。



広報紙市部2席を受賞した「広報とめ17年12月号」

映像、広報企画の部門で入賞した団体や広報功労者の個人団体が参加しました。登米市が発行した「広報とめ17年12月号」は広報紙（市部）で3位に当たる2席を受賞。作品はA4判44ページのものです。特集の「九つがひとつ」では、旧町域でそれぞれ力を注いできた農業や教育、祭りなどが、合併により大きな力になったことを「人」をキーワードに紹介しました。

市では、9町による合併で情報が多くなったことや、市民皆さんに最新の情報を伝えるため、広報紙を毎月1日と21日の2回発行していきます。発行に当っては、掲載記事の協議や前月号の反省などを話し合うため、各担当部署から推薦された



毎月の掲載内容などを協議する広報編集委員会

広報編集委員の会議や、各総合支所の広報担当者会議も開催しています。広報紙は、市民皆さんからの情報があつて作ることができず。皆さんには忙しいにもかかわらず、早く取材に応じていただいたり、原稿や情報を寄せてくださったりするなど、とても感謝しています。今後も市民皆さんから親しまれ、読んでいただける広報紙作りに努めていきます。



班ごとに考えた商品进行评估し合う生徒たち

6月から始まった起業教育の第2回プレゼンテーションが9月21日、東和中で行われました。同中は平成17年度から、地域社会と学校が協働して豊かな職業観を持った子どもの育

成をねらいとする起業教育の指定を受け、18年度から総合的な学習の時間を利用して、週2回その実践に取り組んでいます。これまで、東和地区で創作・販売活動を実践している起業家や食品会社の代表から、商品開発などの参考となる話を聞いたり、陶芸や木工、手芸などの試作品を作成したりしてきました。この日は、今まで学習してきた内容や商品の中間発表を行い、お互いの商品の評価や完成度、価格の設定など、本場に売れる商品なのかどうかの検討をしました。これらの商品は、11月3日に行われる「東和の秋まつり」で販売する予定です。

# 独自の商品を製作して販売

## 東和中で起業教育プレゼン



価格設定や販売方法などの検討を重ねました

成をねらいとする起業教育の指定を受け、18年度から総合的な学習の時間を利用して、週2回その実践に取り組んでいます。これまで、東和地区で創作・販売活動を実践している起業家や食品会社の代表から、商品開発などの参考となる話を聞いたり、陶芸や木工、手芸などの試作品を作成したりしてきました。この日は、今まで学習してきた内容や商品の中間発表を行い、お互いの商品の評価や完成度、価格の設定など、本場に売れる商品なのかどうかの検討をしました。これらの商品は、11月3日に行われる「東和の秋まつり」で販売する予定です。